

経営規模の拡大と農業経営IT化により新たな農業ビジネスを展開

～農業生産法人 株式会社さかうえ～

野菜契約栽培へ

主な導入品目

就農当初：芝生

H 7年：青果用青首だいこん

H11年：ケール（青汁用）

H12年：ばれいしょ

H14年：かんしょ

H22年：キャベツ

H23年：ピーマン

平成8年、暫定通水開始

経営安定を重視

全量契約栽培



スマートレインによるかん水の様子

農業生産法人 株式会社さかうえ

代表者の就農年：平成4年

	平成4年	平成26年
基幹作物	・芝	・キャベツ ・ケール ・パレিশヨ ・飼料用トウモロコシ等
経営面積	21.0ha	94.0ha

事業を契機とした経営の転換

平成8年に暫定通水を開始したかんがい用水を活用し、計画的な作付けが可能となったことを契機に、キャベツ、ケール等の露地野菜を主体とした全量契約栽培の経営に転換しています。

自社で開発した農業工程支援システムを導入し、農業経営のIT化を進めることにより、人と機械と土地の効率化やリスク回避を実現しています。

① 作物の変化

畑地かんがい用水を活用することにより、ケール、ばれいしょ、キャベツ、ピーマンと順次契約栽培の品目を追加しています。

平成17年より、飼料用トウモロコシをサイレージ化して畜産農家に販売しています。一方で、畜産農家から堆肥の供給を受けてほ

場に還元する有機物の循環サイクル「地域循環型農業」を構築しており、そのことが、経営発展を支える基礎となっています。

② 単収・品質の向上

大型高性能機械を積極的に導入し、適期作業・収穫を徹底することにより、品質が向上しています。

約50ha分の散水器具を常備して、畑地かんがい用水を干ばつ時の定植後の活着促進や生育安定に有効活用しつつ、約40ha分の防風ネットも常備することにより、干ばつや台風などの気象災害に対する被害を軽減しています。

③ 経営規模・土地利用調整

積極的に農地を集積しつつ、契約野菜品目の拡大や大型機械の導入による作業効率化等を進めたことなどにより、経営面積が約21haから約94haと拡大しています。

畑かんの整備された農地の集積によりキャベツを核とした経営を展開

～農業生産法人 有限会社福岡農産～



ブームスプレーヤーによる防除作業の様子



予冷库内のキャベツ

農業生産法人 有限会社福岡農産

代表者の就農年：平成9年

	平成9年	平成26年
基幹作物	・葉たばこ ・かんしょ等	・キャベツ ・かんしょ ・にんじん等
経営面積	3.8ha	28.2ha

事業を契機とした経営の転換

平成16年の法人設立後から、生産性の高い畑地かんがい施設が整備されたほ場を中心に農地集積を進め、また、安定的な水利用が可能になったことや、キャベツ生産組合の結成及び契約栽培開始を契機に、葉たばこやかんしょを主体とした経営から、畑かんを利用したかん水効果の高いキャベツなどの露地野菜を中心とした経営に転換しています。

① 作物の変化

平成21年に、キャベツ生産組合を設立し、契約栽培を開始しており、その後、市場の仲卸などの複数の中間事業者を通じたキャベツの契約取引を進めたことにより、経営面積が約4haから約28haと拡大し

ています。

② 省力化

暫定通水が始まった平成8年当時は、移動式スプリンクラーによるかん水を行っていましたが、設置・撤去作業に時間を要することから、ローラーやスマートレインを導入し、かん水作業を省力化しています。

③ 機械・施設の整備

キャベツの経営規模の拡大に伴い、大型機械を計画的に導入して、作業効率の向上を図っています。

畑地かんがいの利用により適期適作を進め、予冷库を導入して定時・定量・定品質の出荷を行うことにより、他産地の商品との差別化が実現しています。